

試験会場名：東京  
受験外国語：フランス語  
試験開始時刻：15:40頃

### 質問内容

A: フランス人女性(50代くらい)

B: 日本人女性(30歳くらい)

あいさつの後

(1) A : Vous habitez à Tokyo?

(東京にお住まいですか)

(2) B : Présentez-vous s'il vous plait.

(自己紹介してください)

(3) A : En cas de grands tremblements de terres, quelles sont vos conseils sur des mesures à prendre?

(大地震の際にとるべき対策をアドバイスして下さい)

(4) A : Au Japon, le bouddhisme et le shintoïsme coexistent. Pour les étrangers, c'est un peu bizarre. Pourriez vous m'expliquer pourquoi?

(日本では仏教と神道が共存しています。外国人にとっては、少し奇妙です。理由を説明して下さい)

(5) A : Vous savez combien d'étrangers touristiques viennent au Japon?

Et quels sont les pays qui se trouvent aux premiers trois rangs?

(訪日外国人の数をご存知ですか。上位3カ国はどの国ですか。)

(6) B : 日本語でお答えください。どのような通訳ガイドになりたいですか。

### 受験の感想

(2)の自己紹介については、名前と居住地だけ聞かれるものと思っていたので意外でした。居住地は最初にネイティブから聞かれて答えていましたが、ここでもう一度、名前と居住地、仕事について答えました。

(3)は何と、ハローメルマガでいただいていた予想問題60のうち、(38)が的中！しっかり準備していました。ハローの模範解答を参考にしながら、追加情報を加えた内容を答えました。まず、屋内にいる場合と屋外にいる場合に分けて説明。最後に、屋内にいる場合、日本の大部分の建物は耐震構造になっているから心配する必要はないこと、屋外にいる場合は、緊急時には消防・救急がすみやかに出動するので心配する必要はないこと、大事なことはパニックにならないこと、日本は地震に対する体制が整っていると締めくくりました。これは指導を受けていたネイティブから、災害時の対応を問われたら、とにかく旅行者を安心させるようなコメントを盛り込むようにアドバイスを受けていたからです。ところが……試験官Aは「心配する必要はない」とのコメントに首を横にかしげて、「あら、そうかしら？」みたいな表情をしておられました。でも回答に対する突っ込みはなく、この問題は終了。

(3)の回答が終わったところで、試験官AがBに振ろうとしたところ、Bから Une autre question(もう一問)とAに催促。そこで(4)の質問が……これは準備していませんでした。今

から思えば無難にしのご回答もあったのに、その時は何と答えてよいやら咄嗟の判断ができず、何だかの的外れな回答をしてしまいました。Aは辛抱強い方なのか、話し終えるまで聞いておられました。そのあと、「でも、二つの宗教が共存してるなんて不思議じゃない？」と再度質問。見方によれば、もう一度チャンスをあげるから、今度はちゃんと答えなさいよというサインであったかも知れません。これに対して、何らかの回答をしましたが答えになっていたかわかりません。ただ、的外れな回答をしたことに気付いたのは退室してからで、回答中は全く悪びれず、笑顔とアイコンタクト・ジェスチャー付きで話し続けていたため、試験官にとっては奇妙に映っていたかもしれません。今思い出しても恥ずかしい……

不思議なのは、Bが「もう一問」と(4)が最後の質問であるとのめかしたにもかかわらず、Aから(5)の質問が。見方によれば、これは(4)の出来の悪さを挽回するために与えられたチャンス？…であればいいと願っているのですが。ただ、この質問は他の受験生も聞かれていたそうなので、単に聞きそびれていたのを思い出して聞かれたにすぎないかもしれません。回答としては、「2009年度は…」と言いかけたところで、Aから「大まかでいいんだけど」とコメント。でも、これは一次の一般常識の勉強では必須項目であり、2009年度の数字を覚えていたので、覚えていた数字を回答。試験官A・B共に「おお！」と声を出して驚かれました。Bから、「じゃ、上位3カ国は？」と聞かれたので、これも難なく回答。すると、Bは「それじゃ、アジアが上位を占めているのね。フランスは入っていないのね。」とコメントされました。なお、この質問で、訪日外国人の数は知りませんと答えた受験生は、試験官から「知ってなくても構いません」といったコメントがあったそうです。

総括すると、質問3までは順調で、回答中は緊張することなく笑顔とアイコンタクトを意識しつつジェスチャーも加えて答えることができました。(4)の回答に対する評価が合否の分かれ目となりそうです。

最後に、ハローのメルマガから大変貴重な情報をたくさんいただき、感謝しています。今回合格できなくても、来年さらにパワーアップして再受験に臨みたいと思います。